29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

事業名：ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業
実施主体：国立国際医療研究センター国府台病院　児童精神科
対象国：フィリピン共和国（＋インドネシア）
対象医療技術等：児童精神医学

事業の背景

- フィリピン共和国は人口10万人あたりの精神保健に携わる専門職はわずか2.0名であり、人口の約37%が14歳未満である特徴もある（WHO AIMS, 2007）。
- フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えていたと報告（WHO, 2007）があるにも関わらず、児童思春期のためのベッドは2%しかない現状である。ポストコロナ時代のフィリピンにおいても子どものメンタルヘルスに関する問題が大きい。

事業の目的

- ポストコロナ時代スクール・メンタルヘルスに関する研修会を開催し、フィリピン共和国とインドネシア、そして日本の3カ国間での議論を通じて、発達障害の啓発や標準的治療技法などの知識習得になる。

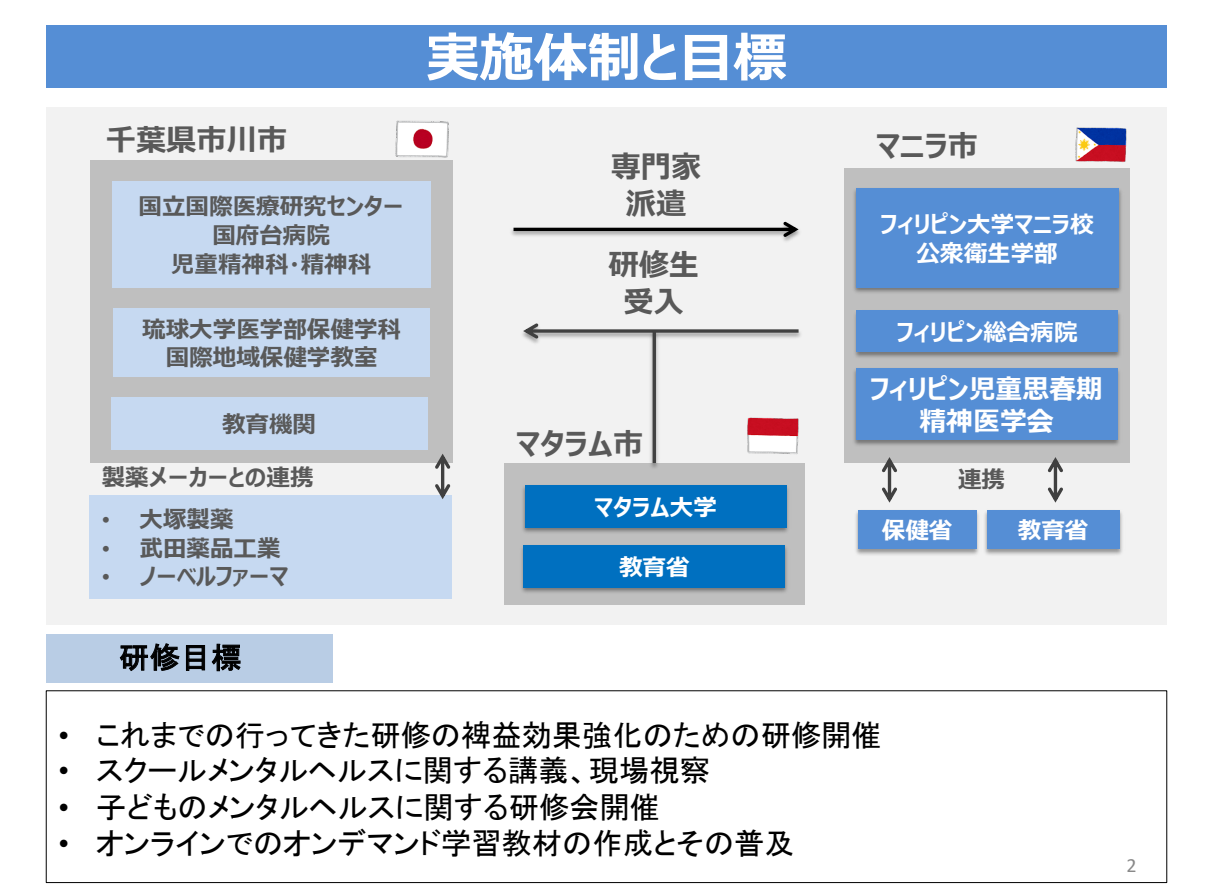
1

「ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業」の報告をさせていただきます。

本事業は、国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科が実施主体となり、フィリピン共和国（＋インドネシア）を対象国としています。児童精神医学を活用し、ポストコロナ時代のスクールメンタルヘルスに関する研修会を開催し、3 カ国間での議論を促進します。フィリピンでは、人口の約 37%が 14 歳未満であり、子どもの 16%が精神障害を抱えているにもかかわらず、対応できるベッドは 2%しかないという深刻な状況にあります（WHO, 2007）。このような背景から、私たちは発達障害の啓発や標準的治療技法などの知識習得に取り組んでいます。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）



事業の実施体制として、国立国際医療研究センター国府台病院、琉球大学医学部保健学科、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部、フィリピン総合病院、フィリピン児童思春期精神医学会など、多くの教育機関や専門家が連携しています。

目標は、スクールメンタルヘルスに関する専門知識と技術の共有、及び実践する専門家の育成です。我々は、研修を通じて、参加者に対し、メンタルヘルスに関する最新の知見を提供し、地域社会でのメンタルヘルスケアの向上を目指しています。

本事業では、スクールメンタルヘルスに関する講義や現場視察を含む研修会を開催し、オンラインでのオンデマンド学習教材の作成とその普及に努めています。研修の目標は、発達障害の知識を深め、標準的な治療技法を習得することです。また、大塚製薬、武田薬品工業、ノーベルファーマなどの製薬メーカーとの連携も進めています。これらの活動を通じて、子どものメンタルヘルスに関する理解を深め、専門家の育成を目指しています。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

令和 5 年度における当事業の実施体制と具体的な月別業務内容、参加者数について細かく説明いたします。

5 月 : 事業の開始にあたり、事前ミーティングを行いました。これは、プロジェクトの目的を再確認し、具体的な活動計画を立案するための重要なステップです。この月には、国立国際医療研究センター国府台病院から 3 名の専門家が参加しました。

6 月：2017 年から 2019 年、そして 2022 年にわたる研修会の総括を行いました。ここでは、過去の活動を振り返り、得られた知見を共有しました。フィリピン国内の学校関係者ら 11 名と、国府台病院及び関連機関から 3 名がこの活動に参加しました。

11 月 : フィリピンにおけるスクールメンタルヘルスに関する講義、対面講義の実施、現地の中高校の視察、そして提言作成を行いました。この段階で、フィリピン国内の学校関係者ら 31 名と、国府台病院及び関連機関から 4 名が参加しました。また、フィリピンで対面研修の打ち合わせを行い、さらに多くの関係者が参加しました。ここでは、フィリピン国内の学校関係者ら 9 名と、国府台病院及び関連機関から 4 名が参加しました。

2 月 : フィリピン国内の学校関係者ら 10 名と、国府台病院及び関連機関から 4 名が参加し、事業の総括と次年度に向けた計画の立案を行いました。

以上が、令和 5 年度の主な活動と参加者数の概要です。このように、各段階で具体的な目標に向けた活動を行い、多くの関係者がこれらの活動に参加しました。これらの活動を通じて、スクールメンタルヘルスに関する知識の共有、専門家の育成、そして現地でのメンタルヘルスケアの質の向上を目指しています。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

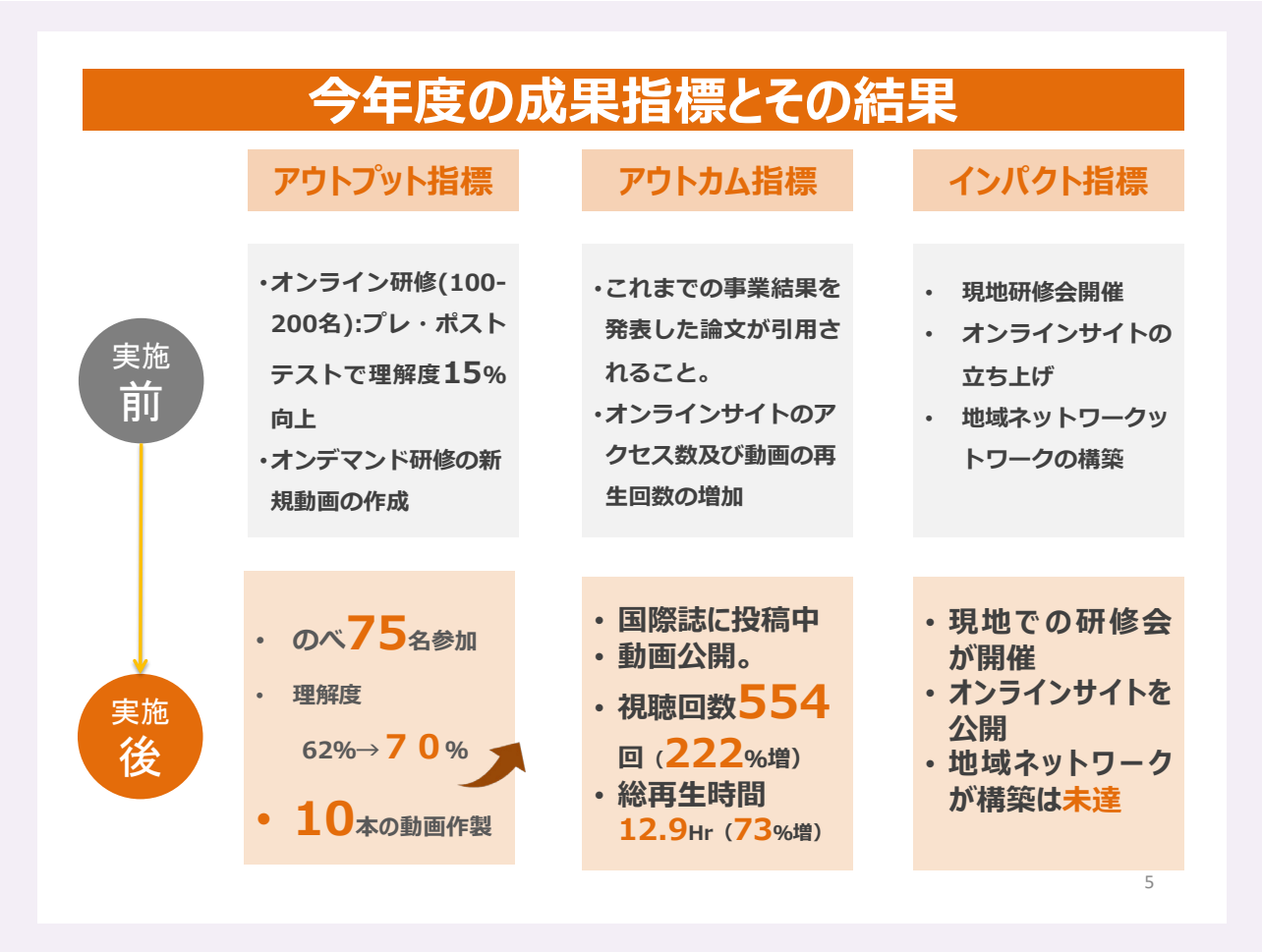
このセクションでは、11 月に行われた事業活動の具体的な内容に焦点を当てます。

活動の一環として、フィリピンの学校教育システムについて深く学ぶ機会がありました。具体的には、マニラ市にある国府台小学校で、日本の学校教育システムについての学びとフィリピンの学校での教育システムに関するディスカッションが行われました。この活動を通じて、参加者は日本とフィリピンの教育システムの違いについて理解を深めることができました。

また、2 月と 6 月には、訪日研修を含む複数の活動が実施され、記念撮影も行われました。これらの活動は、日本とフィリピンの教育関係者間の交流を促進し、相互理解を深める貴重な機会となりました。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）



今年度の成果を定量的に評価するために、アウトプット指標、アウトカム指標、インパクト指標を設定しました。特に注目すべきは、オンライン研修における参加者がプレ・ポストテストで理解度を 15%向上させたことです。また、新規に作成されたオンデマンド研修用の動画 10 本は、総計で 75 名の参加者を集め、理解度を平均 62%から 70%に向上させました。これらの成果は、オンラインサイトのアクセス数及び動画の再生回数の顕著な増加によっても裏付けられています。

動画の視聴回数は 554 回（222%増）、総再生時間は 12.9 時間（73%増）に達しました。これらの成果は、当事業がメンタルヘルスに関する知識の普及と理解の促進に大きく貢献していることを示しています。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 本事業を通じた英論文２本(Usami et al 2018, Estarada et al., 2020)に加えて、フィリピン大学と共同で２本の英論文を投稿中
- アリピプラゾールのフィリピン共和国内での売り上げ

147,055,000 PHP → 156,361,000 PHP

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）：73名
- 日本で研修（講義･実習等）を受けた研修員の合計数：10名
- 対象国で研修（講義･実習等）を受けた研修員の合計数：28名
- 過去に研修を受けて講師･専門家となった現地の講師･専門家の合計数：8名

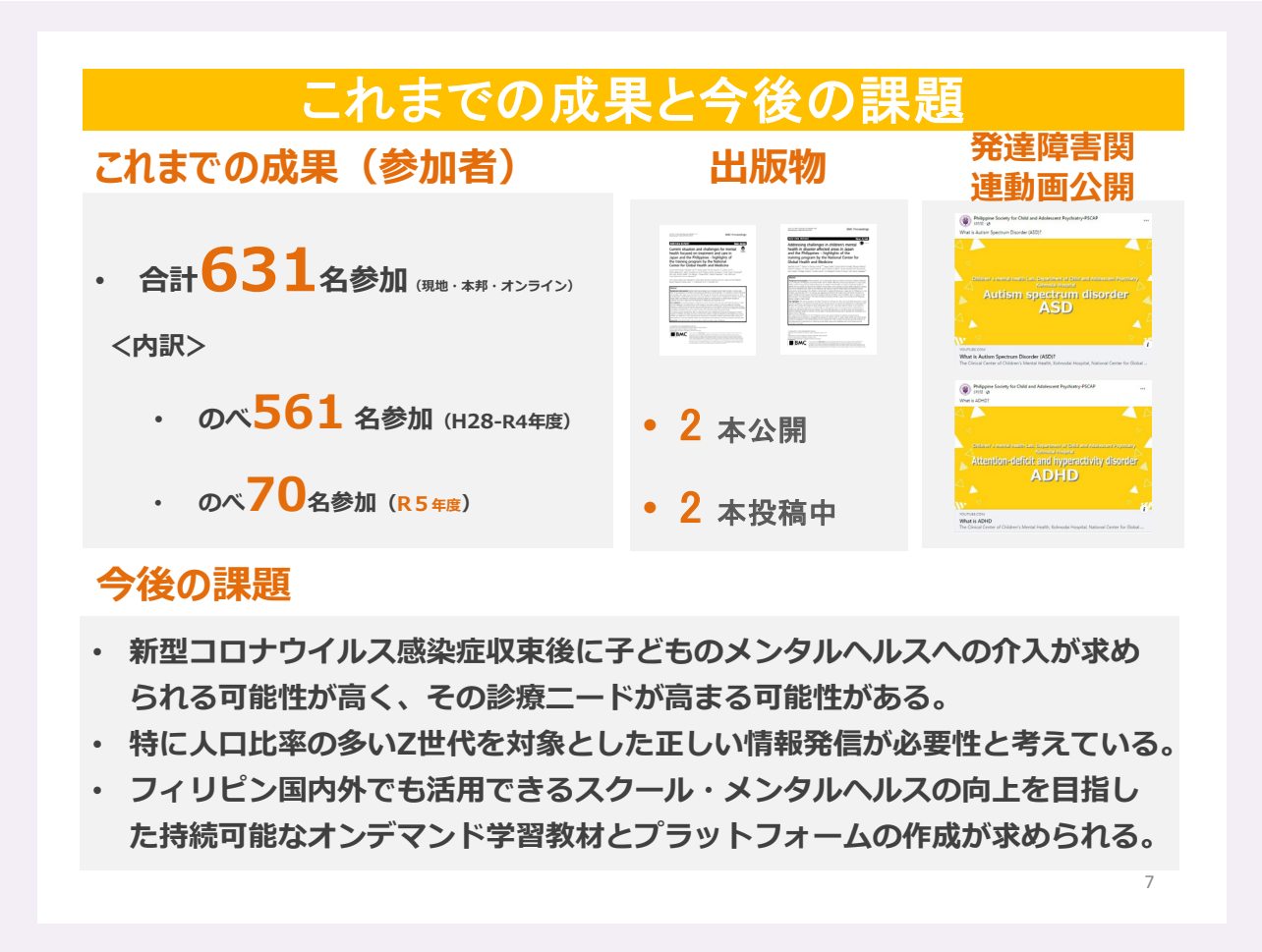
6

事業の対象国におけるインパクトについて、健康向上、医療技術・機器の国際展開など、複数の側面から評価しました。

事業を通じて育成された保健医療従事者は延べ数で 73 名に達し、日本及び対象国で研修を受けた研修員は合計で 38 名に上ります。また、過去に研修を受け、講師や専門家となった現地の人材は 8 名に達しました。このような成果は、対象国におけるメンタルヘルスケアの質の向上と、専門知識の普及に大きく貢献しています。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）



新型コロナウイルス感染症の収束後、子どものメンタルヘルスへの介入の必要性が高まっています。これまでの事業を通じて、合計 631 名の参加者が得られ、特に人口比率の多い Z 世代を対象とした正しい情報の発信と、持続可能なオンデマンド学習教材とプラットフォームの作成が今後の課題として挙げられます。これらの課題に対応するためには、フィリピン国内外で活用できるスクール・メンタルヘルスの向上を目指した取り組みが必要です。

29 ポストコロナ時代の子どもの学校メンタルヘルスの向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

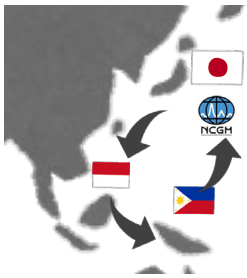
将来の事業計画

子どもの メンタルヘルスに関する知識の向上

- 子どものメンタルヘルスに関する知識/理解（リテラシー）の向上が、医療・教育・福祉の領域で必要である。
- 学会と連携した薬物療法を含めた児童精神医学のトレーニングプログラムの構築

必要な子どもに適切な情報と薬を届ける

- 自閉症に対するアリピプラゾール
- ADHDに対するグアンファシンとリスデキサアンフェタミン
- 発達障害に伴う不眠症に対するメラトニ



東南アジアで共有可能なコンソーシアムの構築

- 世界で急増する発達障害やコロナ後の子どものメンタルヘルスの問題が急務である。
- 東南アジアで子どものメンタルヘルスに関する多国間での情報交換やグッド・プラクティスを共有できるコンソーシアムを日本およびフィリピンを中心に構築していきたい。

最終的に、我々は発達障害やコロナ後の子どものメンタルヘルス問題に対応するために、東南アジアで多国間の情報交換やグッド・プラクティスを共有できるコンソーシアムの構築を計画しています。このコンソーシアムは、子どものメンタルヘルスに関する知識と理解の向上を目指し、医療、教育、福祉の領域で必要なリテラシーを高めることを目標としています。また、学会と連携した薬物療法を含む児童精神医学のトレーニングプログラムの構築も予定しており、必要な子どもに適切な情報と薬を届けることを目指しています。